

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成24年10月29日(月)～11月4日(日)〔平成24年第44週〕の感染症発生状況

第44週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)突発性発疹でした。

感染性胃腸炎は定点当たり5.30人と前週(4.36)より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.15人と前週(1.48)より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。細菌性赤痢の届出が1件(推定感染経路:経口感染、推定感染地域:バングラデシュ・パキスタン)、腸管出血性大腸菌感染症の届出が1件(推定感染経路:経口・接触感染、推定感染地域:国内)ありました。

特に乳幼児は気をつけて！！～感染性胃腸炎～

感染性胃腸炎はウイルスや細菌が原因で起こり、主に下痢やおう吐などの症状がでます。秋から冬にかけて流行するものはほとんどウイルスによって起こり、特にこれからの時期はノロウイルスによるものが増えてきます。

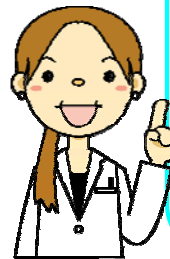
ノロウイルス感染症は、通常であれば2～3日で回復しますが、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重篤な症状になることがありますので注意が必要です。

感染予防方法

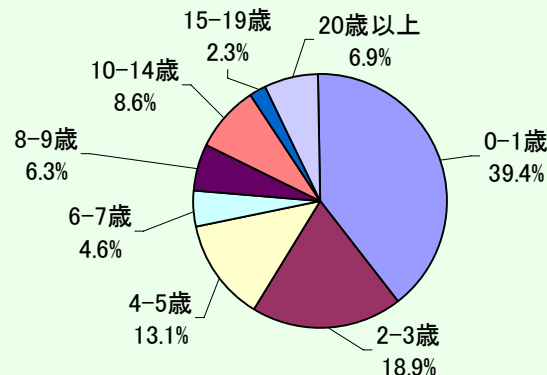
手洗いが基本です。その他に、患者の便やおう吐物は乾燥しないうちに早めに片付け、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)などで消毒してください。

かかってしまったら…

下痢やおう吐により体内の水分を多く失いますので、水分補給はこまめに行いましょう。特に、乳幼児や高齢者は脱水症状になりやすいので注意しましょう。

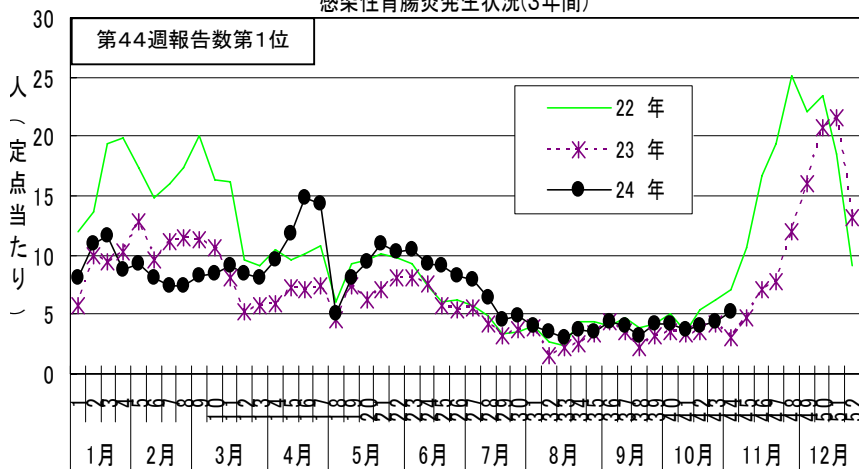


感染性胃腸炎年齢別割合(第44週)



上のグラフのとおり、就学前までの0～5歳の年齢群で感染性胃腸炎患者全体の約71%を占めています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

